

## 札幌オリンピックピックのポスターを

### デザインした河野鷹思の原点

鍋谷 孝

河野鷹思は、一九七二年札幌冬季オリンピックの公式ポスターのデザイナーです。日の丸と雪と五輪とSAPPOROの文字を組み合わせたポスターは、金メダルを獲ったジャンプの笠谷幸生とともに、当時一二歳だった私の忘れられない昭和の記憶の一コマです。

そのポスターの製作者が、昭和初期に松竹キネマ蒲田撮影所に関わっていました。

河野鷹思。本名・河野孝は、一九〇六年神田に生まれます。一九二九年（昭和四）、東京美術学校（現東京藝術大学）図案科を卒業後に、松竹キネマ宣伝部に入社します。入社後松竹キネマ蒲田撮影所の映画のポスターなど宣伝広告のデザインを担当していました。小津安二郎監督の「淑女と髭」はじめ、清水宏、島津保次郎、牛島虚彦、五所平之助といった監督の作品のポスターを次々と制作していきます。いまそのポスターを見ても、色使いや構図、レイアウトに、どこかに新しさを感じてしまいます。

また、河野鷹思は、ポスター制作だけではなく、映画美

術や舞台美術も手掛けていました。

小津安二郎監督「生まれてはみたけれど」では、美術監督として参加しています。改めて、作品を思い返すと主人公の家の庭にある犬小屋も河野鷹思の仕事だったのかな？想像してしまいます。

私見ですが、戦前の河野との出会いによって、小津は、構図、色使い、美的なまなざしに影響を受けたのではないのでしょうか。そして、その影響によって、戦後の小津作品が芸術として昇華していったのではと考えます。

河野も戦後、デザイナーとして、冬季オリンピック札幌大会公式ポスター第一号、日本万国博覧会日本政府館の展示設計、第一勧業銀行のハートのシンボルマークや世界デザイン会議のシンボルマークなど旺盛なデザイン活動を展開しました。また武蔵野美術大学、女子美術大学、東京藝術大学、愛知県立美術大学では、デザイン教育にも関わりました。

昭和初期の蒲田。洋画家東郷青児と入れ替わりに河野鷹思が蒲田の街で活動し、また河野と入れ替わりで、芹沢銈介、各務鏝三が蒲田に現れます。マティスの弟子の洋画家中川紀元もいました。クリエイターが育つ街でもあったのですね。

参考文献 河野鷹思（世界のグラフィックデザイン六三）